

園だより

2021年8月号
2021年8月2日発行

ちきゅうのこども

東京オリンピックが開催中です。無観客での開会式をテレビで見ながら、どこか近くて遠い感覚を覚えています。皆さんはいかがでしょう。騎手に八村塁選手。聖火最終ランナーには大阪なおみ選手と、日本と外国にルーツを持つ人を代表として選んだことで、日本らしさや伝統を打ち出すというより、多様性とグローバルな平和の祭典であることの印象を感じました。

8月は平和について、特に考える時でもあります。8月6日は広島原爆の日。8月9日は長崎原爆の日。そして8月15日は終戦記念日です。戦争を体験した世代はいなくなり、歴史を学び語り継がなければ、日本がアメリカや中国や韓国・朝鮮と戦って、負けたことを知らない子どもが育ちます。

今回のオリンピックは206の国と地域の選手団が参加していました。初めて聞く国の名前もあり、新しく独立した国や地域もたくさんあることに気が付きました。また、難民として祖国から逃れている選手もいました。かつて敵として争っていた国同士、民族同士が、オリンピックに参加することで、民族や宗教や思想や信条の違いを超えて、人として出会い、スポーツを楽しむことが出来るのです。子ども達がオリンピックをとおして、言葉や肌の色、目の色、髪の色が違う人々を知る。違うけれど同じスポーツを楽しむ地球人なのだ。

開会式で、国立競技場に浮かび上がったドローンの青い地球がとてもきれいでした。子ども達には、地球の子どもとして、争いではなく平和を希求する人となってほしいと感じました。

園長 三幣典子

♪ ロケットにのって ♪ (子ども讃美歌2 136番)
ロケットにのって ちきゅうをみたら ちきゅうはあおいほしでしたって
すると みんなはみんなは ほしのくにの こどもたち
めいのいるがちがう ことばもちがう ちきゅうのうえのこどもはおおぜい
そして みんなはみんなは ほしのくにの こどもたち
よぞらをひとり みあげていたら ちきゅうのほしもあかりをとます
すると うちゅうはうちゅうは かみのくにのこどもたち